

## アクション・プランのパブリックコメントの状況

## 1. 意見募集期間

平成 22 年 5 月 21 日（金）～ 5 月 28 日（金）12 : 00

## 2. 意見提出数

合計 859 件

※ 1 人から複数の意見提出があった場合には、それぞれ別個にカウントしています。

## 3. 属性別集計

属性	意見数
研究者	537 件
会社員	122 件
団体職員	109 件
公務員	25 件
その他	66 件
合計	859 件

## 4. テーマ別集計

テーマ	意見数
1. 基本的考え方関係	196 件
2. グリーン・イノベーション関係	530 件
3. ライフ・イノベーション関係	287 件
4. 競争的資金の使用ルール等の統一化関係	73 件
5. 巻末資料関係	2 件
その他	17 件
合計	1,105 件

※ 複数のテーマで意見提出があった場合には、それぞれ別個にカウントしています。

## 5. 主なご意見

### ○ グリーン・イノベーション関係

#### 【主なご意見】

- 植物科学を利用した技術の研究も位置づける必要がある。
- 風力エネルギー、海洋エネルギー、地熱エネルギー等を利用した技術の研究も位置づける必要がある。
- 食料増産技術、農業技術の研究も位置づける必要がある。
- 森林・生物多様性の保全、自然共生も位置づける必要がある。
- 高効率航空機の研究も位置づける必要がある。
- 無駄な電力消費を省くことができる情報通信技術を利用したシステムの研究も位置づける必要がある。
- 材料技術、水素製造技術、ヒートポンプ、超電導技術、地球観測・気候変動予測の研究等も位置づける必要がある。

#### 【ご意見への対処方針】

- 課題「再生可能エネルギーへの転換」（9 ページ）
  - 方策「太陽光発電などによる再生可能エネルギーへの転換の促進」を 2 つに分け、新たに「バイオマスによる再生可能エネルギーへの転換の促進」を設定する。
    - ・ 新たな方策「バイオマスによる再生可能エネルギーへの転換の促進」の中で、植物機能の解明、植物の活用技術など植物科学を利用した研究開発を明確に位置づける。
    - ・ 「太陽光発電などによる再生可能エネルギーへの転換の促進」の中に、風力エネルギー、海洋エネルギー、地熱エネルギー等を利用した技術を明確に位置づける。
- 課題「エネルギー供給・利用の低炭素化」（12 ページ）
  - ・ 方策「化石資源の効率的使用」の中に、超電導送電技術を明確に位置づける。
- 課題「エネルギー利用の省エネ化」（15 ページ）
  - ・ 方策「次世代自動車の普及による交通運輸分野の低炭素化」において、高効率輸送機器について高効率船舶に加え、高効率航空機を併記する。
  - ・ 方策「次世代自動車の普及による交通運輸分野の低炭素化」の中に水素供給システム（製造・輸送・貯蔵）を明確に位置づける。

- ・ 方策「次世代自動車の普及による交通運輸分野の低炭素化」及び「オフィス・住宅の省エネ化」の中に、材料技術を明確に位置づける。
  - ・ 方策「情報家電・情報通信機器等の省エネ化」を「情報通信技術の活用による低炭素化」と変更し、情報通信技術を利用したシステムによる省エネ化を明確に位置づける。
- 課題「社会インフラのグリーン化」(19 ページ)
- ・ 方策「環境先進技術による社会インフラのグリーン化への支援」を2つに分け、新たに「豊かな緑環境・自然循環の形成」を設定し、その中で、
    - －気候変動に対応した森林、生物多様性の保全
    - －地球観測・気候変動予測・総合解析の高度化
    - －循環型食料生産の推進を明確に位置づける。